

2022年度 佐賀西部コロニー 事業実績報告書

1. 法人運営に関するもの

本年度は、新型コロナウイルス感染症が昨年度以上に拡大すると共に、コロナの「全数把握」が見直しされ、感染拡大地域の推測もできない状況での感染症予防対策をしながらの事業運営となった。その為、本年度も職員に対しては公私ともに行動の自粛を依頼し、更にやむを得ず県外など感染リスクが高い交流があった場合は1週間の出勤停止や抗原検査による検査などを実施し、感染予防対策の徹底に取り組んできた。しかしこうした対応の中においても、各事業所では少ない職員の中での多くの業務をおこなわなければならないなど厳しい状況となったが、クラスター発生には至らず収束させることができています。また希望した職員、利用者様に対して5回目のワクチン接種も完了している。本年度の税務管理指導も、昨年度に引き続き ZOOM による Web 会議が中心とせざるを得なかった。しかし定期会議以外でも随時連絡や相談などを行い透明性のある財務管理を進めることができた。

施設整備については、基本設計と実施設計を終え、今後の物価高騰により建設費の増額が懸念されるが、本年度予定していた多良岳福祉園新築工事に向け国庫補助の申請や建設予定地の構造物の解体も順調に終えている。

処遇改善特定加算についても規程に基づき、対象職員に対して3月には特別一時金の支給も行っている。

2. 福祉事業活動

本年度もコロナ禍における全日本カブト虫相撲大会については中止せざるを得ず、第38回夏休みの昆虫教室として「みんなで昆虫図鑑をつくろう！」を開催し、350人の子供たちからの本年度はクワガタムシに関するたくさんの情報をもらい、昆虫図鑑を製作することができた。

また、運動会や勤労感謝の会の開催もできない状況であったが、各事業所の創意工夫で様々な活動を行い、利用者様に喜んでいただいている。

3. 就労事業活動

就労支援事業においては各施設とも厳しい中で努力しながらコロナ禍での活動を活発化させていった。特に佐賀少年刑務所や太良町役場からの提案で佐賀県障害者週間の一環として、佐賀西部コロニーの商品販売や障害者理解への啓蒙活動を行い、利用者様の参加は見送る事としたが、3年ぶりにどん3の森に於いて、佐賀西部コロニー収穫祭として販売活動も行っている。

2022年度 昆虫の里 事業実績報告書

1. 総括事項

(1) 施設運営について

2022年度はWith コロナ対策と並行した事業運営が求められた年になった。本年に入り社会は経済優先となり、行動制限の緩和など中止されていたイベントも多く開催となった。就労事業では「佐賀さいこうフェス」「佐賀矯正展」販売会への出店や、法人イベントとしても「佐賀西部コロニー収穫祭」を3年ぶりに開催できるなど、明るい話題提供が出来る機会が増えた。

SAGA2024 国スポ・全障スポを2年後に控え、印刷部門の広報関連の受注は好調であり受注内容もコロナ前に戻りつつある。

利用者様の処遇に関しては高齢化や健康維持の課題と並行に、意向を重視しながら個別支援計画書に基づき、ひとりひとりにあった細かな支援を行った。

職員の資質向上については、本年も社協のWeb研修を主体に様々な研修を受講した。またOJTとして「精神疾患」をテーマに意見討論を行い、障害福祉サービス事業所の職員としての知識向上とスキルアップに努めた。

(2) 施設利用者様の豊かな人格形成

With コロナ対策と共に衛生対策の確保を図り配送納品や販売活動などに参加し、顧客と交流が出来た。夏には第2回スポーツ大会を武雄市のボーリング場を貸切り、ボーリング大会を開催した。利用者さんは初心者向けにガーター無しゲート付きやスロープ台を使い競技をするなど有意義に楽しむことが出来た。

(3) 快適な質の高い施設づくり

利用者様個々に合わせた支援を目指し、佐賀西部ホームと連携して支援にあたった。また偶数月第1土曜日を環境整備の日として施設内の環境美化に取り組んだ。

(4) 働き甲斐のある施設づくり

朝礼時は毎日ラジオ体操を実施し、皆で「私たちの誓い」を復唱し、明るく元気に笑顔で一日のスタートができるように取り組んだ。作業時には安全配慮と整理整頓を心がけ、けがのない安全で明るい作業場の環境づくりに努めた。

2. 福祉事業活動

利用者様は4月末、7月にそれぞれ1人退所し、3月に1人新規利用開始され1名減の37名が現員である。障害福祉サービス事業収入は、80,166千円と昨年より2,959千円の減収となった。施設整備については事務用PC、管理棟のトイレ洋式化や、重油ボイラーからエコキュート温水器へ設備更新を図った。就労事業では印刷部門の平型転写プレスを更新した。

また事務所前路面舗装や、排水路工事の工事を施設工事として訓練の一環でおこなった。

3. 就労支援事業活動

今年度の木工部門は家具製品や特注品を主体に多種多様な商品づくりを行った。施設工事は訓練指導で出来る案件については整備を進め更新を図った。園芸部門は海水みかんを中心に贈答用商品で差別化を図るなど付加価値を付け販売を行った。湯がきタケノコ等加工品は、売れ行き好調であり更なる販路拡大を目指す。印刷部門については国スポ・全障スポの広報関連品など、様々な依頼が増えるなど売上増になった。

新規事業として肥前大浦駅、道の駅太良のトイレ清掃業務と佐賀NOKの自動車部品組立て等の施設外就労を取り入れた。就労支援事業収入は前年度より158千円減の31,659千円だが経費等支出は減り昨年並みの決算となった。工賃については、昨年度比282円増額の一人当月平均32,065円を支給し2022年度の目標工賃は達成した。

また12月に木工部門において利用者様が重大な大ケガした件に関しては、ご心配おかけする事態になり大変申し訳ございませんでした。今後は再発防止の徹底に努めます。なお部門別の実績については、下記のとおりである。

	2022年度 (千円)	2021年度 (千円)	差額 (千円)	前年度比 (%)
木工部門収入	9,909	11,885	▲1,976	83.3
園芸部門収入	11,036	10,401	635	106.1
印刷部門収入	10,713	9,530	1,183	112.4
合計	31,659	31,817	▲158	99.5
一人当月工賃	(円/月) 32,065	(円/月) 31,783	282	100.8

※施設外就労は木工部門の利用者様で取り組んでおります。

2022年度 佐賀西部ホーム 事業実績報告書

1. 総括事項

(1) グループホーム運営について

本年度は With コロナをテーマに、どうやったら安全な生活が送れるか取り組んだ。共有スペースは重点箇所として衛生対策の指導と点検を行い、セーフティゾーンではマスクを外すタイミングを伝えるなど生活様式の確立を図った。また世間の行動制限の緩和と共に、外出の機会が増えることを想定して、利用者様自身で携帯消毒液を用い衛生対策の訓練を実践した。

帰省時は衛生対策等の確認が取れない中に、ご家族様への確認連絡を徹底し新型コロナを持ち込まない衛生対策を徹底し、特に帰所直後の食事は自室で提供していただくなど、マスクを外す機会での接触を減らす支援を行った結果、未然に防止することが出来た。

本年度も生活の充実を図る目的で各棟に分かれてクッキング教室の機会を増やし、利用者様自身でハンバーグやカレーライス、お好み焼きなど昼食時を兼ねて作り食事会を実施しました。更に定期的にカラオケ会やウォーキングを行うなど、日々の楽しみを増やし満足度を高めてもらった。6月には防火避難訓練及び水防法に基づいて大浦校区の指定避難場所まで移動訓練を実施しました。

職員の資質向上については、社協の Web 研修を主体に様々な研修を受講した。OJT として昆虫の里合同で「精神疾患」をテーマに意見交換を行い、障害福祉サービス事業所の職員としての知識向上とスキルアップに努めた。

(2) グループホーム利用者様の豊かな人格形成

今年度も太良町からの振興券を活用し食事会や、刺身などが入った特製お弁当をお取寄せしました。また定期的買い物支援など余暇活動を計画する事で、地域社会と交流を図りながら皆さんが、コロナ禍でも安心安全な生活が送れる支援に努めた。

(3) 快適な質の高いグループホームづくり

昆虫の里との連携を図りながら、施設環境整備の向上を目指し、偶数月第3土曜日を環境整備の日としてホーム内外の清掃を行い 整理整頓の行き届いたホームづくりを行った。また細かい部分については定期的に支援員にて清掃及び衛生対策を行った。

(4) 喜び溢れるグループホームづくり

安心して生活できる生活環境の向上を図り、活力ある明るいホームづくりに努めた。月一回は互助会会議を通じて利用者の皆さんの意見を尊重し、自主的に取り組まれることはやらせてみて出来ないところを支援するように取り組んだ。

2. 福祉事業活動

本年度の利用者数は7月に1名の退所、3月に1名の利用開始があり増減なしの28名の現員である。福祉事業活動収入は49,984千円と前年より、357千円の減収となった。なお利用者様の支援については、個別支援計画に基づき生活支援員・世話人が主体となり本人の意思を尊重して支援にあたった。

2022年度 多良岳福祉園 事業実績報告書

1. 総括事項

(1) 施設運営について

本年度は、全国的に拡大した新型コロナウイルス感染症が12月には、多良岳福祉園でも発生し、4名の利用者様を感染させてしまった。またこの時期に厨房内の排水溝で職員が足を負傷する事故を発生させ、新型コロナウイルス感染対策と併せ一時厨房業務を休止せざるを得ない事態に陥ったが、昨年度に策定・見直しをしてきた事業継続計画BCPに基づき対策を行うことで、施設内拡大を最小限に抑え、厨房業務の早期再開を行う事ができた。

こうした対応を行う中で、買い物など施設外への外出の行動制限や施設行事の縮小など利用者様や家族様より多大なご協力をいただきながら、年間の行事を進める事ができた。2月には、温水ボイラーのポンプが老朽化の為故障し、数日入浴の提供ができない事態が起きたが、太良町社会福祉協議会に協力をいただき、しおさい館に入浴に行くなど、ちょっとした施設旅行を味わうことができた。また本年度も、太良町役場や佐賀少年刑務所からの提案をいただき、佐賀県障害者週間に合せた販売会と啓蒙活動を実施することができ、利用者様の社会参加への発信を行う事ができた。

(2) 施設利用者の豊かな人格形成

コロナの「全数把握」の見直しにより、感染拡大状況が全く分らなくなり、常に感染リスクを負いながらの支援となり、昨年度以上にコロナが拡大する中で規模を縮小しながらも、七夕祭りや運動会、買い物研修や施設でのカラオケなど、利用者様の安全を確保しながら楽しめるよう、様々な施設行事に取り組んだ。

(3) 快適な質の高い施設づくり

本年度は 多良岳福祉園新築に向けての基本設計が完成し、これに基づき8月には、2023年度（令和5年度）の国庫補助金の申請を行った。12月には追加資料提出や県担当者とのヒヤリングなど、本年度対応すべきことが十分できたと云える。また建設予定地の構造物については予定どおり解体を行った。

利用者様の支援については、職員研修会を行いながら職員の知識や技術の向上に務め、また看護師を中心として、県の支援による施設内での歯科検診の実施や太良病院からの訪問リハビリ指導と併せ、日々の健康管理を行うことができた。また、調理の部においても管理栄養士が中心に個々に合せた食事の提供や創意工夫したメニューの展開など、食事を通して利用者様に喜びと健康を与えることができた。

本年度も虐待防止の取り組みとして職員研修会や第2回多良岳福祉園虐待防止標語コンテストを開催した。コンテストでは、44作品の応募の中から以下作品が入賞し、開かれた施設と利用者様の権利擁護に努めることができた。

○第2回多良岳福祉園虐待防止コンテスト

- 最優秀賞 1作品「お互いを 認とめることが 輪の秘訣」
 優秀賞 2作品「その言葉 しつけと思っても 虐待です」
 「見えますよ あなたの姿 やさしい心」

(4) 働き甲斐のある施設づくり

農産部門では、殺菌釜用ボイラーを更新し、しいたけの品質と生産量の向上に取り組み、園芸部門では、委託農家と協働した海水サツマイモ栽培、更に野草部門では、年間を通して計画的な野草生産・野草茶販売、工芸部門では、日中活動で作製した組紐や、利用者様が描いたイラストなどで、季節ごとに作品を施設内に飾り付けをするなど、本年度も各部門で掲げた事業計画達成のために、各部門の責任者が中心となり安心・安全で明るく楽しい、働き甲斐のある施設づくりに取り組んだ。

2. 福祉事業活動

本年度は、利用者様が入院中に容体が急変し、病院で亡くなるという悲しい知らせがあり、また家族様の近くの事業所へサービス移行となるなど、2名が退所され、定員60人につき実人数56名の利用となった。

事業収益については、昨年度の障害福祉等サービス事業収益229,930千円に対し234,349千円と、4,419千円の増収となった。なお今年も処遇改善特定加算を給付し、規程の整備を行い年度末に対象職員に特別一時金として支給をしている。

3. 日中事業活動

本年度は、園芸部門では基腐れ病による販売量の低下、農産部門は年間通して収穫量の減などにより就労支援活動の収入が減少したが、内需事業を行いながら昨年並の就労支援事業収益は17,827千円をあげた。しかし物価や電気料の高騰により、原材料費や水道光熱水費の増額となり、利用者の工賃については、一人当たり月平均8,172円と本年度も3月の賞与を支給できず、昨年度比1,566円の減額となった。

部門別の収入実績については、下記のとおりである。

	2022年度 (千円)	2021年度 (千円)	差額 (千円)	前年度比 (%)
農産部門収入	10,518	11,995	▲1,478	87.6
園芸部門収入	5,036	2,393	2,643	210.4
野草部門収入	1,312	978	334	134.2
工芸部門収入	961	70	890	137.1
合計	17,827	15,436	2,391	115.5
一人当たり工賃	(円/月) 8,172	(円/月) 9,738	▲1,566	83

4. 相談支援事業

本年度は、地域生活者からの相談が増え、例年以上に関係機関との調整が必要となった。また佐賀西部ホームから介護保険サービスへの移行に向けての相談が数件あり、家族様とご本人を交えながら話し合いをし、相談支援事業所として今後の道筋を示すことができた。引き続き関係機関と連携を深めながらご本人のニーズと必要とされる支援の橋渡しを行っていききたい。

2022年度 白石作業所 事業実績報告書

1. 総括事項

(1) 施設運営について

- (イ) 今年度も、新型コロナウイルスオミクロン株の感染拡大やウクライナ情勢による物価高騰等で就労事業活動に大きな影響が出たが、9月より「道の駅しろいし」でのレストランの皿洗いやトイレ掃除の業務委託契約による施設外就労や白石町のふるさと納税返礼品の受注により、売上は昨年度より増収となった。又、佐賀県や白石町からの物価高騰応援金などを活用しながら、昨年度を上回る工賃の確保ができた。
- 安心・安全な施設づくりと職場環境づくりに努めると共に、就労継続B型事業所として施設資源を十分に活用しながら、利用者様のニーズに適った明るく元気よくをモットーに働き甲斐のある施設づくりに全職員一丸となって取り組んだ。そうした中で、今年も利用者様が自ら地域での販売活動等を通してご支援をいただいた皆様に支えられながら、地域とともに就労の喜びと生き甲斐をもって作業に従事し、円滑に施設運営を進めることができた。
- (ロ) 利用者様の処遇に関しては、「明るく楽しく」をモットーに、就業中における事故等が起きず作業の安全が守られるように、職員の意識向上の啓発に努めながら労働安全衛生管理の徹底に取り組んだ。又、利用者様と施設の安心・安全確保のため通報システムや災害時に即座に対応できるように職員研修等も行い、施設の保安管理を進めた。
- (ハ) 職員の資質向上については、個々人の研鑽と意識改革の喚起を促すために各種研修会の参加を計画したが、新型コロナ感染拡大の影響で研修会の開催がなかったため、Web研修会の参加により職員資質向上に努めた。又、働き方改革にも応じた職員処遇の大きな改善に努めた。

(2) 施設利用者様の豊かな人格形成

佐賀西部コロニー 3施設合同によるイベントは、ほぼ中止となったために各施設において独自に利用者処遇向上のために様々な活動を進めた。「武雄宇宙科学館」での販売活動や年末の「勤労感謝の会」、規模を縮小して行った年末の「佐賀西部コロニー収穫祭」、白石作業所での「歳末海水みかんセール」や食事会と映画鑑賞会等の余暇利用等により社会との交流の喜びを習得できるように努めた。

(3) 働き甲斐のある施設づくり

法人運営理念の『互譲互助』精神と『感謝の気持ち、謙虚な態度、素直な心で』を1年の目標として挨拶が響きあう明るい職場作りに努め、創意工夫を重ねながら、より効率的な作業体制を作り安全で快適な働き甲斐のある施設づくりに努めた。

又、利用者様で作る互助会会議を毎月1日に開催して、自分達の意見で話し合いながら1ヶ月の目標を立て、皆さんが協力し合いながら明るく楽しい施設づくりに努めた。

2. 福祉事業活動

本年度の障害福祉サービス事業収入は、62,486千円となり利用者様の病気等による出勤日数の減少により、前年度より1,501千円の減収となる決算となった。

今年度は大きな施設整備等はなく、8月の大雨時の雷被害による建物共済保険金給付金で「こだわり館」の自動ドア改修工事を行った。又、佐賀県や白石町からの物価高騰応援金等により就労事業の業務省力化による作業効率の改善を図った。

利用者様の利用状況については、10月に1名退所があり、定員30名、現員33名で推移した。職員については、4月に1名の育休復帰者があり、12月に1名の退職者があったが、基準上の職員配置内であり適切な運営を行うことができた。

3. 就労事業活動

本年度の就労事業収入は33,115千円となり、新型コロナウイルス感染拡大によるイベント中止やウクライナ情勢による物価高騰等があったが、アイス、菓子収入が増収し前年度に対し1,375千円の増収となった。道の駅等の直売所の売上げが好調で、佐賀県や白石町からの物価高騰応援金等を活用して工賃の確保に努めた。工賃については、目標工賃達成を利用者様・職員一体となって取組み、2022年度は一人当たり月平均25,097円となり、前年度の25,018円に対して79円の増額となったが、25,500円/人の目標工賃を達成することができなかった。

部門別の実績については、下記のとおりである。

部 門		年 度	2022年度 (円)	2021年度 (円)	差額 (円)	前年度比 (%)
農 産 収 入	アイス収入		5,599,550	4,265,594	1,333,956	104.7
	園芸収入		2,362,525	3,030,465	▲ 667,940	
	菓子収入		6,964,145	6,163,000	801,145	
	加工収入		2,744,103	2,948,114	▲ 204,011	
	こんにゃく収入		1,874,258	2,262,215	▲ 387,957	
	小計		19,544,581	18,669,388	875,193	
販売収入			13,570,687	13,070,552	500,135	103.8
合 計			33,115,268	31,739,940	1,375,328	104.3
1人当たり工賃			(円・月) 25,097	(円・月) 25,018	(円・月) 79	100.3